

美濃地区社会教育通信

つなぐ

地域学校協働活動 ～地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える～

中濃県事務所 振興防災課振興防災係

社会教育担当:片桐

美濃市生櫛1612-2

中濃総合庁舎 0575-33-4011(内線 208)

R8.10月発行

令和8年度 美濃地区社会教育研修会



つなげよう!地域と子ども ～持続可能な地域づくり～

令和8年8月21日に開催しました美濃地区の社会教育研修会についてご紹介します。当日は、管内の公民館関係者・社会教育委員・学校教育関係者、また昨年度に引き続き、現役の高校生の皆さんを含め、約90名にお集まりいただきました。当日は、実践発表や交流会を行い、情報共有や意見交換を行いました。

実践発表:『公民館は地域の接着剤～私たちがつなぐ藍見の未来～』

発表者:美濃市藍見公民館 中学生ボランティア・職員



藍見公民館では、「イベントを楽しむ消費型」から「みんなで地域をつくる共創型」への転換を進めています。

昭和中学校の生徒たちは、ふれあい夏まつりや区民運動会、公民館まつりの企画・準備・運営に主体的に参画し、地域住民との交流を深めながら地域づくりに取り組んでいます。また、公民館まつりでは音楽CDの無償譲渡活動を通して、地域の思い出や歴史を次世代へ受け継ぐ交流も生まれました。

子どもたちを地域の担い手として信じて任せる大人の支えと、公民館を核とした多世代のつながりが、地域の絆と未来を育む実践として紹介されました。

事例①中学生ボランティアの活動



実践発表:『森・人・まちをつなぐ木育

～関商工高校生による持続可能な地域づくりへの挑戦～』

発表者:関市立関商工高等学校 工業科生徒



関商工高等学校では、「地域の森を未来につなぐこと」をミッションに、地域材の活用や木育に取り組んでいます。

関市産の木材を活用した木製ジャングルジム「くむんだー」を用いて、子どもたちに木の大切さや森とのつながりを伝える活動をしています。また、建築材としては利用しにくいB材などの地域材の課題に着目し、地域の製材所やデザイナー、事業者と協働して「IDOBATA TABLE」を開発しました。さらに、森林文化アカデミーの演習林での学習や、保育園、製材所などとの連携を通して木育活動を推進しています。

地域の森林資源を生かし、森・人・まちをつなぐ持続可能な地域づくりへの取組が発表されました。



実践発表後、武義高校の代表生徒と関市市民協働課「VS プロジェクト」の高校生メンバーによる活動紹介の時間を設けました。参加者の多くが興味深く聞き入り、その後のグループ交流では、高校生の活動に対する質問や感想が多く寄せられ、参加者同士が地域活動の意義や今後の展望について語り合う姿が見られました。



【参加者からの感想（一部抜粋）】

- ＊昨年から、実際に携わって計画をしてくれた中高生が自らの言葉で発表してくれて、グループトーキングでも生の声を聞くことが出来ることで、これからの将来像が見えてきた気がしてとても有意義な研修会であったと感じました。（社会教育関係者）
- ＊開催日が夏休みなので、中高生の参加が可能で、賑やかで良かった。子ども達の生の声も聞ける場で有難かった。（社会教育関係者）
- ＊山に囲まれて生活していて、手入れの行き届かない森林が増えるのを不安に思っています。関商工の挑戦を頼もしく感じます。（公民館関係者）
- ＊中高生の発表内容がとても聞き応えがありました。中学生が主体的にボランティアに取り組む風土をどうつくるか、高校生が専門を活かし磨きながら、大人の方と意義を共有しながら活動する、この2つの発表から、共に創る（共創）がポイントであると学ばせていただきました。（学校関係者）
- ＊美濃地区における中高生の社会に対する取り組みを知る機会となつてよかった。特に、藍見公民館の取り組みが、自分がやってきた活動と重なるところがあって、もっと交流したい気持ちになりました。同世代・同年代でも、違う学校、校区との交流を盛んに行ってみたいです。（高校生）
- ＊たくさんのグループから活動報告や意見が聞けてよかった。いいところもたくさんあって、VSプロジェクトにも取り入れたいと思った。（高校生）
- ＊大人の方々のたくさんの意見を聞き、地域の思いを改めて感じる事ができました。高校生の話も聞くことができ、中学生だけでなく、高校に行ってもボランティアは続けられることが分かり、積極的に参加していこうと思いました。（中学生）